



第30回 ユーザーの意見を聞く懇談会

—まとめ—

一般社団法人
長野県自動車販売店協会

目 次

I まえがき	1 ページ
II 開催概要	2 ページ
III 懇談会テーマ	3 ページ
IV 主催者あいさつ	3 ページ
V 意見交換	4 ページ
VI 参加学生アンケート	18 ページ
VII 付則資料	21 ページ

I まえがき

長野県自動車販売店協会は、昭和 31 年 3 月、県内で国産車を販売する 15 社のディーラーが集まり、経営やサービスの改善を図ることを目的に設立しましたが、当時の県下自動車保有台数は、僅か 22,000 余台でありました。現在では、自動車メーカー 12 系列のディーラー 27 社が加盟し、約 400 の店舗と約 6,000 名の従業員により、登録車と軽自動車の販売・車両整備をさせていただいております。

車社会の進展に伴い、環境保全・交通事故防止対策が深刻な社会問題となり国民の関心が高まる中、これらの課題に積極的に取り組みながら、少しでも地域社会に貢献したいとの願いを込め、平成 3 年 6 月、長野県知事認可による「社団法人長野県自動車店協会」を設立。平成 23 年 4 月に「一般社団法人長野県自動車販売店協会」へと移行し、自動車の販売事業と併行し、“地球環境の保全”と“交通安全活動”を二本柱に据え、公益事業活動を積極的に展開しております。

さて、「ユーザーの意見を聴く懇談会」は、交通安全・環境保全問題並びに行政機関・自動車販売業界に対する要望・意見を直接自動車ユーザーの皆様から聴かせていただく懇談会として平成 4 年から実施しており、今回で 30 回目を数えることになりました。今回は、「若者の車離れ」と言われる中、信州大学・長野県立大学・清泉大学・長野自動車大学校・松本情報工科専門学校の皆さんにご参加いただき、車に対する関心、安全運転支援機能やエコカーに関する考え方などについて意見をいただく機会として開催いたしました。

今回、皆様方からいただきましたご意見・ご要望を冊子に編集いたしましたので、会員や関係団体、行政機関等に広く周知して、より良い車社会の実現を図るため活用させていただきます。

終わりに、ご参加いただきました皆様と懇談会にご協力いただきました皆様に対し、心から感謝と御礼を申し上げます。

II 開催概要

1 日 時 令和7年11月12日（水）
懇談会 15：15～16：45
夕食会 17：00～18：30

2 会 場 ホテルメトロポリタン長野 2階「千曲」
長野市南石堂町1346

3 出席者 43名（詳細は付則資料に掲載）

(1) ユーザー代表

信州大学・大学院 5名
長野県立大学 4名
清泉大学・短期大学部 5名
長野自動車大学校 5名
松本情報工科専門学校 5名

(2) オブザーバー 1名 信州大学工学部 准教授 高山 潤也 様

(3) 協会役員 8名

(4) 協会会員 2名

(5) 司会進行 1名 SBC 信越放送アナウンサー 中澤 佳子 様

(6) 記者 1名 株日刊自動車新聞社 秋山 淳 様

(7) 協会職員 6名



III 懇談会テーマ

- ・将来、車を持つ場合は、どのような所有形態を選ぶか。
- ・自分が思う夢の車、理想の車とは。
(安全運転支援機能を搭載した車、未開発の性能・装備など)
- ・親しみや魅力のあるディーラーとは、どのようなディーラーか。

IV 主催者あいさつ

長野県自動車販売店協会理事長の宇都宮でございます。

本日お集まりいただいている学生の皆さん、信州大学の高山准教授には、当懇談会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

SBC信越放送の中澤佳子アナウンサーには、毎回お世話になっておりますが、今回もよろしくお願ひいたします。

さて、私どもの協会は、県下の自動車ディーラー27社で構成され、交通安全や環境問題などの公益事業を主体とし、より安全で快適な車社会となるよう活動しております。

本日の懇談会も、皆さんから自動車に関連する様々なご意見やご要望をお聞きし、今後の活動に活かそうとするものです。



現在、日本では人手不足が大きな社会課題となっております。日本の基幹産業である自動車関連産業も同様であり、トラック・バス業界では、長時間労働規制の影響もあります。運転手不足が深刻な中、公共交通である路線バスが首都圏でも減便される状況にあります。我々自動車ディーラーも整備人材不足が深刻であり、現在の車検制度にも支障をきたすものと心配するところです。

一方、先ごろジャパン・モビリティショーが開催され、「車に興味がない」と言われている時代ですが、101万人の来場者があったことはご存じでしょうか。これからはAIをはじめ、水素、EV、その他にもギガキャストなど、革新的な技術が取り入れられた車がたくさん出てきます。また、車の利用形態についても、サブスクリプションやシェアリングという形も広がりつつあり、自動車業界には、今、速さを増す社会変革の波が押し寄せています。

本日は、皆さんからいろいろな意見・情報を伺いし、データサイエンスやデータベースマーケティングを活用しながら、今後のモビリティ社会の方向性について考えていきたいと思います。

短い時間ではありますが、肩の力を抜き、ざっくばらんに皆さんと語り合えることを期待いたしまして、開催の挨拶といたします。

V 意見交換

« 表示上の説明 »

- 信州大学工学部・大学院を「信州大学」、清泉大学（短期大学部含む）を「清泉大学」、長野県立大学を「県立大学」、長野自動車大学校を「自動車大」、松本情報工科専門学校を「松本情報工科」とし、個人名はアルファベットによる表記とする。
- 信州大学（5名）は、A～Eで表わす。
- 長野県立大学（4名）は、F～Iで表わす。
- 清泉大学（5名）は、J～Nで表わす。
- 長野自動車大学校（5名）は、O～Sで表す。
- 松本情報工科専門学校（5名）は、T～Xで表す。
- 司会：緑字
男子学生：青字（高山准教授を含む）
女子学生：赤字
協会役員：黒字で表わす。

発言者	発言内容
司会	それでは、さっそく意見交換に入りたいと思います。 本日は、自動車に関するテーマで自由に討論していただきますが、事前に皆さんに簡単なアンケート（注1）を実施させていただきましたので、それに基づき意見を伺っていきます。

注1:アンケート結果はP20以降に掲載しています。



車の免許を持っていますか。

司会	ユーザーの皆さんの中で、「車の免許を持っている」という方は拳手をお願いします。 « 全員拳手 » 全員の方が持っているということですね。本日は、車に興味のある方が大勢いらっしゃるようですが、その中で「車に興味がない」という方は手を挙げていただいてよろしいですか。 « 数名拳手 » では、Oさん。車の専門学校に通っていらっしゃいますが、なぜ「車に興味がない」に手を挙げられたのでしょうか。車以外に興味がたくさんあるという感じでしょうか。
自動車大O君	そういうわけでもないのですが、「車がすごく好き」というわけではないです。
司会	Oさんにとって車というのはどのような存在ですか。
自動車大O君	「自由に使える足」という感じです。
司会	単純に移動手段として考えていらっしゃるということですね。

	女性の方も何名か手を挙げっていましたが、Jさんはなぜ「車に興味がない」と思われるのでしょうか。
清泉大学Jさん	私は徒歩と電車が移動手段の中心になっていて、中学、高校の頃からずっと変わらないので車の免許を取った目的も身分証明のために取ったという部分もあったので、車というものにベクトルが向きませんでした。「免許があればできることが多いから」という理由が一番大きかったので、あまり車に注目を持たず生活してきたという感じです。
司会	Kさんはいかがですか。
清泉大学Kさん	私も免許は持っていますが、自分で使える車がないので車と関わる機会があまりなかったということもあり、そこまで興味は向きませんでした。
司会	なるほど。移動手段として車があればあったでいいけれども、という感じでしょうか。 もう少しお話しをお伺いしたいのですが、LさんやMさんはいかがでしょうか。最初にLさん、お話しいただけますか。
清泉大学Lさん	私はほぼ毎日車に乗るのですが、その車は母から譲り受けたもので、移動手段の一つとして捉えているので、乗れば何でもいいという考え方です。 車に興味があって車に乗るというよりかは、生活のために乗っているという感じです。
司会	Mさんはいかがですか。
清泉大学Mさん	私もLさんと同じで、運転して移動できればいいかなと思っています。車が好きな方は、かっこいい見た目とかで「車が好き」という方もいらっしゃると思いますが、私はバイクの免許を持っているので、車にはあまり意識が向かないという感じです。
司会	では一方で、「自分にとって車は単なる移動手段ではない、大きな存在だ」という考えをお持ちの方、お話しいただけますか。『複数名挙手』Fさんお願いします。
県立大学F君	私の中で人々が車に求めるものは大きく二つに分けられると思っていて、一つ目は先ほどもお話しにあったように「移動手段としての価値」だと思いますが、私が重要視しているのはもう一つのほうで、走る喜びであったり、車を所有することによって得られる「所有欲」、自分で車を整備することで得られる「愛着」などがあると思いますが、私は後者を大事にしたいと思っていて、単なる移動手段ではなく自分を表現するための手段の一つとして捉えています。 今、自分の愛車があるのですが、すごく愛着を持っているので、今後も乗り続けていきたいと思っています。
司会	その車は、いつ手にしたのですか。
県立大学F君	私は現在、大学4年生ですが、大学2年生の夏に車検を取ってそれからずっと毎日のように乗っています。
司会	周りの友達で車を所有している方は、結構いらっしゃいますか。

県立大学F君	体感で 10 人中 6~7 人くらいはいると思いますが、私のように車を単なる移動手段としてではなく、純粋に車が好きで楽しんでいるという人は、10 人集めて 1 人いるかいないかの割合かなと感じています。
司会	Fさんは、なぜそんなに車が好きなのですか。
県立大学F君	私の父が車関係の仕事をしており、小さい頃から車に触れる機会が多かったため、その影響だと思います。
司会	Fさんのように車への愛を語りたいという方、他にいらっしゃいますでしょうか。 車関係の学校に通われていて、車がお好きなTさんはいかがですか。
松本情報工科 T君	私は少し古い車に乗っているのですが、どうしても故障や不具合が出てきてしまうので、同じ学校に通っている車好きの友達と試行錯誤しながら修理して、直った時の嬉しさとそれまでの過程の楽しさがすごく好きです。
司会	女性の方にも聞いてみたいのですが、いかがでしょう。 Nさんは先ほどの事前打合せの時に「車が好き」だとおっしゃっていましたよね。
清泉大学Nさん	はい、私は 2 ヶ月ほど前に自分の車を買ったのですが、車検が通る範囲で自分でカスタムしたり、近々新しいホイールも届くので交換する予定なのですが、やはり自分で手をかけるとすごく愛着が湧いて、自分の愛車と共に旅行したりとこれからがすごく楽しみです。
司会	自分の車を手に入れた時の気持ちというのはどうでしたか。
清泉大学Nさん	今乗っている車がトヨタの「カムリ」なのですが、ずっと前から欲しかった車なので納車した時はすごく嬉しかったです。
司会	Nさんの女性の友達で車を持っている方は多いでしょうか。
清泉大学Nさん	いるにはいますが、自分だけの車を持っている友達は少ないかなという印象です。
司会	なぜ自分の車が欲しいと思ったのでしょうか。
清泉大学Nさん	前から車が好きだったので、絶対に自分の車は欲しいと思っていました。
司会	車を移動手段として所有したいと皆さんが思っているとして、その所有の仕方ですが、今の時代は、自分で買って所有、サブスクやリースを使って所有、色々な方法があると思います。 Aさんは車を所有するとしたら、どんな所有の仕方をしたいですか。



車を持つ場合は、どのような所有形態を考えていますか。

信州大学A君	僕は所有する形を取りたいです。 ただ、その住む地域によってそういう考えは全然違うと思っていて、これから自動運転のタクシーとかも出てくると思うので、そうなるとタクシー運転手の人工費がかからなくなり、乗車料金も安くなると思ってるので、都会に住む方たちは恐らく車を所有するよりもタクシーなどを
--------	--

	<p>使う人が増えていくのではないかと思いました。</p> <p>でも、車が必要な地域の人は今後も自分の車を所有していくと思います。</p>
司会	<p>地域によって今後は二極化していくのではないかと考えいらっしゃるということですね。</p> <p>そのあたり、高山准教授はどうお考えでしょうか。</p>
高山准教授	<p>車の所有の仕方がたくさんあるというのは事実で、その地域あるいは個人のニーズに合わせて、所有の形態はどんどん変わっていくものだと思います。</p> <p>先ほどもお話しにありました、「自分の車を所有して手を加えたい」という方は所有するということになりますし、「車は移動手段だ」という方は家族の車を借りたり、カーシェアリングを利用したりと旧来はなかったものが広がってくる中で個人個人が車を所有するということに対してよく考えなくてはいけない、そういう時代になっているのかなと感じています。</p>
司会	<p>今日お越しの皆さんの中に「カーシェアリングを利用したことがある」という方いらっしゃいますか。《若干名挙手》</p> <p>Bさんお願いします。</p>
信州大学B君	<p>私は普段からカーシェアリングを利用することがあり、特に行き先などは決めずに気分転換でドライブをすることが多いです。</p> <p>色々な車種が揃っていて、日によって違う車に乗ることができるので、カーシェアリングならではの面白さみたいなものを楽しみながら利用しています。</p>
司会	<p>他にカーシェアリングを利用したことがある方、お話しいただけますでしょうか。</p> <p>Gさんお願いします。</p>
県立大学Gさん	<p>私はよく「トヨタシェア」を利用させていただいている。15分単位で借りられるので大学の空きコマなどによく利用していて、必要な時にその都度使えるというのが便利だと感じています。</p>
司会	<p>自分の車を持つというよりも、今後もカーシェアリングを利用していきたいという感じでしょうか。</p>
県立大学Gさん	<p>自分の車持てるのであれば持ちたいのですが、寮生活であったり、大学に駐車場がないということもあり、カーシェアリングを利用するしかないという状況です。</p>
司会	<p>今後、カーシェアやサブスクなどのサービスを利用して車を使うというよりかは、「自分の車を持ちたい」と考えている方でお話ししてくださる方はいらっしゃいますか。</p> <p>では、Pさんお願いします。</p>
自動車大P君	<p>はい、私は去年の6月に車を買いました。</p> <p>車を借りるということは、どんなにお金を払ったとしても自分のものにはならないので、「自分で車を買った」という気持ちの面で満たされる</p>

	部分があるのはとても大きいと思います。
司会	「借りる」と「持つ」とでは全く違うわけですね。 Cさんはいかがでしょうか。
信州大学C君	僕も車が好きなので、自分で持ちたいという気持ちはあります。先ほど「車を手入れすると愛着が湧く」というお話があったと思いますが、自分もそう思っていて、走っている時に気になるところがあつたらディーラーの方に相談したり、自分の好きなように車をカスタマイズしていくことで車に対しての愛着が生まれると感じています。
司会	できることなら自分の車を持ちたいという方がほとんどだと思いますが、今、全員の方が持っているわけではないということでした。 「車を持つ」ということにあたって、それがなかなかできないのはなぜなのかということをお聞きしたいと思いますが、お話ししてくださる方いらっしゃいますか。 手を挙げてくださったHさん、お願いします。
県立大学H君	一番の理由は金銭面です。 車を持ちたい気持ちはすごくありますが、本体価格やその後の維持費、ガソリン代や駐車場代もかかるので、奨学金を借りながら学費を払っている身としては車に対して使うお金がないというのが現状です。
司会	経済的、金銭的な面が一番大きいということですね。 Hさんと同じように「自分もだよ」という方、お話しいただけますか。では、Iさんお願いします。
県立大学Iさん	私自身も金銭的な負担が大きいと思っていて、車を買おうと思った時もあるのですが、インターネットで調べても自分が求めている車種や値段、走行距離を考えると学生の身では手が出せないですし、先ほどGさんもおっしゃっていたように、県立大学は駐車場がないため車で通えないということもあり普段使いがしにくく、必要な時にカーシェアを利用すれば事足りてしまうので、そういう意味でもローンを組んで買うほどでもないと思っています。
司会	例えば、社会人になって働くようになったら車を持ちたい気持ちは大きくなってくるでしょうか。 それとも車は持たず、徒歩や公共交通機関を使って、その分違うところにお金を使いたいという感じでしょうか。
県立大学Iさん	私の場合は住む場所にもよるのですが、小学生の時に目の前で車同士の衝突事故を目撃したことがあります、そのトラウマもあつたりしてできるだけ車を使いたくないという気持ちもあるのですが、地元が車がないと何もできないというところなので、安全面がしっかりした車や場所であれば買いたいなと思っています。
司会	今、「若者の車離れ」という言葉をよく耳にするとと思いますが、皆さんはこの「若者の車離れ」をどのように感じて捉えていらっしゃいますか。 自動車整備の学校に通われているUさん、お話しいただけますか。



若者の車離れについて思うこと。

松本情報工科 U君	車をただの移動手段と思っている人が本当に多いと思うので、自動車関係の学校に通っていたり、自分で車をいじったりするのが好きな身からするともっと車好きな人が増えてほしいとは思います。
司会	同じ学校に通うVさんはいかがですか。
松本情報工科 V君	はい、私もUさんと一緒に自分たちは車をいじったり乗ったりするのがすごく楽しいと思っているので、他の人たちにもその楽しさを知ってもらいたいなと思っています。
司会	「若者の車離れ」というのはずっと言われていますが、どうしたらそれを解消できるのか、実現できるか否かに関わらず、「こんな車があれば絶対手に入れたい」「こんな車が出てきたら楽しそう」というような意見を聞いてみたいと思いますが、いかがでしょうか。 では、Qさんお願いします。



自分が思う夢の車。理想の車。

自動車大Q君	正直、今の車は乗っていてあまり面白くない車が多いなと思っていて、最近の車は簡単に操作ができたり、すぐ壊れたりもしないので自分で手をいれるところがほとんどない、そういうところで今の車はあまり魅力はないのかなと感じてしまいます。 GT-Rとか、そういう車が輝いていた時代のほうが熱かったなと。
司会	もっと面倒くさい車が良いと。
自動車大Q君	ある意味そういう感じですね。 そういうところも可愛がってあげるのが愛なのかなと思います。
司会	Wさんもそう感じたりしますか。
松本情報工科 W君	そうですね、自分も車が好きなので、最近のスポーツ系の車はすごく値段が高くて手を出しづらいから離れていくという人も結構いると思うので、少しでもコストを下げたような楽しい車があればいいのかなと思います。
司会	やはりコストも大事だということですね。 先ほど「あまり車に興味がない」とおっしゃっていた、Oさんはどうでしょうか。
自動車大O君	色々な装備品などで購入価格が高くなってしまうので、車自体はもっとシンプルでもいいからコストを下げてほしいなと感じます。
司会	Jさんはいかかですか。
県立大学Jさん	私のバイト先の通り道にピザのデリバリーのお店があるのですが、すごく小さくて可愛い車を使って配達をしていて、コンパクトで小回りも利きそうだし、狭い道でもすれ違いがしやすそうで、そういう車がもっと普及してくれれば良いなと思いますし、実際に私も運転してみたいなと思いました。
司会	もっとお話しを伺っていきたいと思いますが、Dさん、「こんな車が

	あつたら若者がぐっと引きつけられるのではないか」「こんな広め方をしたらみんなもっと車に興味を持つのではないか」というアイデアがあればお話しいただけますか。
信州大学D君	<p>大学生の立場からすると、小さい頃から自分の車を持つことに憧れがある人以外は金銭面で諦めてしまうことが多いと思っていて、先ほどもお話にあがっていましたが、カーシェアなどを利用すると気軽に車を使うことができてしまうので、「車への憧れ」という部分に関しては少なくなってきたているのかなと感じています。</p> <p>僕も車を持つ前は、車を維持していく大変さですか、ハードルが高そうという漠然としたイメージを持っていて、車を持つうえで最低限の知識は必要だと思いますが、ディーラーのサポートであったり、知識のない人も優しい環境であればもう少し車にとっつきやすくなるのかなと思いました。</p>
司会	Rさんにお話しをお伺いしたいのですが、お願ひできますか。
自動車大R君	<p>僕が住んでいる場所は車のある生活が当たり前で、むしろ車のない生活は考えられないので、「車に興味がない」という考えがあまり分からぬというのが本音です。</p> <p>整備士の専門学校に通い、周囲も車が好きな人たちばかりでしたので。</p>
司会	それでは車に興味を持っている皆さんからして、「車はこうなるともっと良いのにな」というアイデアはどうでしょうか。
自動車大R君	今マニュアル車に乗っているのですが、車に興味がない人からすると操作も多いし面倒くさい車だと思われるかもしれません、自分はそれがすごく楽しくて、走っていて楽しい車が今の現行車で出してくれれば嬉しいなと思います。
司会	Xさんがいかがですか。
松本情報工科 X君	<p>大人っぽい車が増えすぎてしまったのかなと思います。</p> <p>最近は「クラウン」とか、近未来感が増していて、値段もかなり高くなってしまったと感じています。</p> <p>若い人でも高級車を持ちたいと思っている人もいるので、「憧れの車」でも、ある程度の値段で乗れたら良いなと思います。</p>
司会	Eさんはどうでしょうか。
信州大学E君	私の乗っている車がオートマ車で、「面倒くなくて手のかかる車」というものに愛着はないのですが、「自動運転」や「コネクテッドカー」のようなテクノロジー面で進んだ車が今後さらに出てくると便利になってとっつきやすくなるのかなと思います。
司会	Sさんはどうですか。
自動車大S君	僕はあまりこだわりとかはなくて、今ある車をどれだけ自分の好きなようにできるかということをポリシーにしているのですが、最近の車は性能がコロコロ変わったり、どんどん新しいものが装備されたりして変化の波に追いついていく感じがするので、最先端というよりかは、今まであったものをどれだけお客様に馴染ませていくか、そういうところ

	ろでとつつきにくさというのも少しは軽減されるのではないかなど感じました。
司会	今は本当に世の中が AI ばかりになってしまっていますが、AI と車の関わりという部分で「こうなっていくのではないか」という考えがあればお話しいただきたいのですが、Fさんはどのように考えますか。
県立大学F君	<p>私の中では、「運転も AI が全て制御してくれる車」が将来的に出てくるのではないかと思っていて、車を単なる移動手段として捉えるのであればそれ以上に優れたものはない個人的には思っているのですが、それと同時に車を趣味として捉える人たちというのはいつの時代にもいると思うので、AI が普及して進化していく中で自動運転の車があるというのはすごくワクワクしますし、安全面に関しても人間が運転するより事故を減らせたり、より良い形で車が普及していくのかなと思います。</p> <p>ただ、そんな社会の中でも「車が趣味で、自分で運転したい」という人たちのための車も残したりして、ある程度の環境を整えることも必要であると個人的には考えています。</p>
司会	<p>確かに、両方の環境は必要かなと思いますね。</p> <p>「車好き」のNさんはいかがでしょうか。</p>
清泉大学Nさん	私は駐車が苦手なので、駐車する際に今よりもっと手厚い運転支援システムがあれば運転が苦手な方とかも乗りやすくなって、もっと車が普及していくのかなと思いました。
司会	Kさんは先ほど「車にあまり興味がない」とおっしゃっていましたが、「こんな車があったら良いのに」と思う車はありますか。
清泉大学Kさん	私自身、車の運転をすることはあまりないのですが、たまに運転する機会があって、運転していて怖いなと思う部分もあるので、その怖さを少しでも軽減できるように AI がサポートしてくれたり、アドバイスしてくれると良いのになと思うことはあります。
司会	<p>苦手なところをサポートしてくれるのはありがたいですよね。</p> <p>Xさんは「全席マッサージチェアの車」とアンケートにお答えいただいていますが、その理由はなんでしょうか。</p>
松本情報工科 X君	僕の乗っていた車のシートが硬くて、肩や腰が痛くなったりしたので、マッサージチェアなら快適に運転できますし、ただマッサージをするためだけに車に乗ってマッサージをする、ということもできるかなと思ったので、書きました。
司会	続いてGさんお願いします。
県立大学Gさん	<p>先ほどもお話ししましたが、私自身、まだ車を移動手段としてしか使ったことがないので、「車を普及するためにはどうしたら良いか」ということを先ほどから考えていたのですが、やはり車を所有したいという人を増やすには限界があると思っていて、これから先も若者の車離れは加速していくと思うので、車の所有数は少なくなってしまうと思うのですが、今後はもっと公共的なものになっていけば実用性は増えるのかなと思いました。</p> <p>そう思ったのも、今年の夏にモンゴルに二週間ほどいたのですが、モン</p>

	ゴルは車社会で道路渋滞がかなり酷く、日本だとカーナビが渋滞の迂回路などを教えてくれると思いますが、モンゴルは曜日によってナンバープレートの番号が奇数か偶数かで道路の走行を制限していたり、信号があるのに信号の表示は無視して交通整理を行っている人がいたり、すごく不思議だと感じることが多々あったからです。
司会	とても貴重なご意見ありがとうございます。 Aさんはいかがですか。
信州大学A君	先ほどのお話しにもあったのですが、AI となるとやはり自動運転だと思うので、ちらっと聞いた話ではありますが、テスラの車は歩行者を認識して、止まっている車の影に隠れてしまったとしても、その人がどれくらいの速度で歩いて何秒後に出てくるかということも AI で計算して危険察知を行っているそうなので、事故を提言したり、人間のヒューマンエラーをなくすというところで、AI はさらに活躍してほしいと思っています。
司会	それでは高山先生、これまで色々なお話しをお伺いしてきましたが、「手がかかるけど整備しながら車を楽しみたい」という方と、「AI を使って便利な車になってほしい」という方はこれから二極化していくのでしょうか。
高山准教授	私はすでに二極化していると思っています。 皆さんのご意見を全部伺って集約して車を作るとすると、恐らく車は作れないと思います。そこで、「どうすれば良いのか」ということを考えると、コンピューターや AI をうまく使ってあげる。自動運転とか環境問題だとそういうことを意識すればするほど、車も白物家電のようになってしまい、要は車が、彼らが言っている「つまらないもの」になってしまうと思います。そうすると車離れはますます進んでいくでしょう。 先ほども、「駐車支援をしてほしい」だとか、個人個人で皆さんが思っていることが違います。だからこそ、コンピューターをうまく利用して支援の度合いを変えられるだとか、フレキシビリティのあるものができてくれれば、車離れというのは多少変わってくるのかなと思います。 私も車が好きですから、やはり車に乗っていて楽しいなど、「自分の手足のように車が動くって楽しい」と思います。そういうものを普段なんとなく必要に駆られて乗っている皆さんも感じられるような、そういうところもコンピューターが支援できると「良い車」ができると思います。
司会	多様化の社会になっていますし、自分個人のカスタマイズ的な感じでコンピューター制御ができると良さそうですよね。
高山准教授	そのあたりも人間が設定するというよりも AI が考えてほしい、「この人はこういう好みなのだろう」と自然に無意識の間にやってくれる、それが AI だと私は思っています。せっかく AI を使うのなら、人間の気付かないところでそういう仕事をしていただきたいと思います。
司会	皆さんの意見を聞いていて、私が思ったのは車も一緒に育っていく、大切にすればするほど育つみたいな、育っていくという楽しさがあると良いのかなと、ふと思いました。

高山准教授	それこそ AI は一つの生き物かもしれないんですね。嫌なことをされたら車が嫌がるとか、挙動で不満を出すとか。そういう風にユーザーが楽しんでいけたら良いなと思いますね。
司会	<p>いい相棒になると面白いですね。</p> <p>続きまして、皆さんは車を購入する際や試しに見に行ってみようかなと思った時どうしているでしょうか。</p> <p>すぐディーラーに行くのか、それともインターネットで検索してみるのか、このあたりについてお聞きていきたいと思いますが、Bさん、車を購入するとなった場合、まずどんなアクションを起こしますか。</p>



車を購入する・見に行くときはどうしていますか。

信州大学B君	インターネットで中古車販売サイトを見ています。
司会	実際にお店へ行ってみてようとは考えたりしないですか。
信州大学B君	あまりないです。
司会	それはなぜでしょう。
信州大学B君	まだ買えるほどのお金がないというところで、お店に行くとそのまま買うような流れになってしまいそうなので、まだ早いかなと思っています。ネットであればいつでも気楽に見られるのかなと。
司会	ネットで見ている時に、「もう少しこんな風に見られるといいのに」と思うことはありますか。
信州大学B君	前乗っていた方が色々カスタムしたところがどうなっているのかというのは見たくて、最近は車体を 360 度見ることができるサイトもあるので、そういうものも使いながら見ています。
司会	Iさんはどんな行動を起こされますか。
県立大学Iさん	私の場合はあまり車に縁がなかったので、そもそもどのメーカーが良いのかも分かりませんし、車にどんな機能があるのかというのも分からぬので、インターネットのまとめサイトを見たりしてまず最初にどういう車があるのかというところから始まる感じです。
司会	それで色々知った後にお店に見に行こうかなという感じですか。 Iさんは今、気軽にに入るなと思うディーラーはありますか。
県立大学Iさん	ディーラーの方は知識がすごいある方ばかりというイメージがあるので、もちろんそれは安心感もあるのですが、何も知らない私からすると「私なんかが行っていいのかな」という不安もあったりするので、「分からぬ人には一から説明しますよ」というような感じであればすごく入りやすいかなと思います。
司会	Cさんは自分の車をお持ちのようですが、買いに行かれたのですか。
信州大学C君	自分の場合は父が選んで買ってくれました。
司会	では、自分で車を買うという時、どんなディーラーだと入りやすいと思いますか。
信州大学C君	父がディーラーの方と仲が良く、車の詳しい話などもできるので、まず

	ディーラーの方と仲良くなつて、信頼関係を築けたらいいなと思います。
司会	Rさんはどうですか。
自動車大R君	私も中古車サイトを見て選んでいくと思います。 ただ、行ける距離であればサイトで車を見て、実際にお店まで行って買いたいです。
司会	Lさんはいかがですか。
清泉大学Lさん	私も車に詳しいわけではないので、父や母が乗っている車のメーカーであれば安心かなと感じるので、そういったところの車で自分が気に入ったものがあればお店に行ったりして決めるかなと思います。
司会	では、Mさんにお聞きしたいのが、直接お店に行くのはまだ気が引けるなと思ったときに、信頼できるものは何ですか。 SNSであったり、テレビであったり、何を見たり聞いたりしていますか。
清泉大学Mさん	父が車をいじったりするのが好きな人で、一番身近な存在が父なので、まず父に相談します。
司会	ご自身では車以外で欲しいものがあるとき、何から情報を得ますか。
清泉大学Mさん	それはネットになつてしまふかなと思います。 スマホで手軽にすぐ検索ができるので。
司会	スマホ検索でいうと、インスタとか色々あると思いますが、主にどのような媒体を使っていますか。
清泉大学Mさん	インスタもよく使いますし、X(旧 Twitter)とか、色々な SNS やサイトを見比べて、比較的一番評価の高そうなものを選んでいます。
司会	Jさんにも聞いてみたいと思いますが、車に関わらず情報を取りに行く場合はどんなものを使って情報を得ていますか。
清泉大学Jさん	私の親戚に車販売をしていた親族がいるので、その方を頼ることもありますが、大きいお金が動くので信頼できる家族や友達に相談して選ぶことが多いかなと思います。
司会	車に限らずですが、欲しい物ができた時、皆さんはどうやって情報を取りに行くのだろうと私も興味があるのですが、Dさんはどうやって情報を取りに行っていますか。
信州大学D君	自分もインターネットが一番手軽に調べられるのでインターネットかなと思っていますが、インターネットは自分から情報を取りに行かないといけないので、自分が知っている知識の中でしか情報を探せないし選べないなと思っていて、今持っている車を中古で買ったのですが、インターネットで調べ「この車良いな」と思ったのを中古車販売店に行って見たという流れだったのですが、販売店の方とお話ししているとやはり知識がすごくて、自分も結構ネットで色々調べていたのですが、それ以上に必要な情報を教えていただいたりしたので、知識がある方と話すことが大事だなというのをその時に感じました。
司会	やはり一番は人だということですね。 高山准教授、色々な情報の取り方があると思いますが、例えばテレビCMを見て「この車かっこいいな」と思ってそこから入っていくよりも、若い

	方たちはインターネットや SNS なのでしょうかね。テレビ局に勤める者として少し複雑ではありますが、今はそういう時代ですか。
高山准教授	<p>肌身離さずスマートフォンを持っていますから、検索したい時にすぐ見つけられるというのは便利だと思います。</p> <p>私も車を買うときはインターネットで検索します。岡山から福島ぐらいまで中古車を買いに行ったこともありますので、情報ってすごいなと思います。</p> <p>一方で、車を買う時は必ずお店に出向くことにしていますが、ディーラーの方や中古車販売店の方とお話しをすると知識が豊富なんですね。ただ、「売る」ということを全面に出してくれる方と、親身になってその車の相談に乗ってくれる方、恐らく両者いるのではないかと思っていますが、どちらが信頼できるかというと断然親身になってくれる方だと思います。</p> <p>車は高価なものですから、ネットで買うということはなかなか実現できないと思いますので、親身に対応してくれることって非常に大切なと思います。</p>
司会	Tさんも最後は人と話してしっかり車を選んでいきたいという風に思われますか。
松本情報工科 T君	そうですね、自分の車を買った時もインターネットで調べて、欲しい車が置いてあるお店同士で比較したりして、安心できるとお店に直接出向いて現車を確認して買ったので、高い買い物なので、やはり最後は自分の目で見て決めたいなと思っています。
司会	続いて皆さんには、「自動車と環境」という面からお話しをお伺いていきたいと思いますが、今はガソリン車だけでなく、色々なタイプの車が出てきています。車と環境の共存というところに関して、Vさんはどのように考えてらっしゃいますか。



環境保全について感じることを教えてください。

松本情報工科 V君	最近は EV がすごく進んでいるなと思うのですが、僕自身はガソリン車のエンジン音だったり振動が好きなので、違う燃料でガソリン車と同じエンジンで動くような燃料が出てくるとすごく良いのかなと思います。
司会	Hさんはどうでしょうか。
県立大学H君	EV やハイブリッドは環境に良いですし、増えてほしいとも思いますが、金額が高かったり、田舎は充電場所が都会に比べて圧倒的に少ないのであまり現実味がないなと思います。
司会	そのあたりについて、Wさんはどう考えますか。
松本情報工科 W君	自分も車が好きなので、車好きだとマフラーを変えたりだとかそういう楽しみがガソリン車にはあって、電気自動車だと人工的に音を出しているので無音というわけではありませんが、静かすぎて逆に危ないことがあるかもしれないで、ガソリン車としての良さもあると思います。

司会	Kさんはいかがですか。
清泉大学Kさん	やはり田舎だと電気自動車は充電する場所がなかったり、そもそも電気自動車が高いので、環境に優しい車は少し税金を下げるとかそういう対応があると手を出しやすいのかなと思います。
司会	水素の車について聞いてみたいと思いますが、Dさんどうですか。
信州大学D君	自分はそれほど水素の車について知識があるわけではないので、純粋にかっこいいくらいの気持ちですが、今車を選ぶとしたら水素は選ばないかなと思います。 環境に良い車を選ぶにあたって自分の出費が増えるのであれば、自分も含め安いほうを選ぶ人が大多数ではないかと。先ほど税金の話も出ましたが、金銭面の支援というのはものすごく大事じゃないかと思います。
司会	Eさんはいかがですか。
信州大学E君	すでにいろんな方がおっしゃっていますが、電気自動車、水素自動車を買うにあたって、環境に良いというだけで買おうという考えには中々ならないと思うので、金銭面や利便性の面で何かメリットがあれば買う人も増えるのではないかと感じました。
司会	今日は本当に色々なお話しを伺つきましたが、だんだん時間も少なくなっていました。 せっかくディーラーの社長さんがいらっしゃいますので、車に関して自分が思っていることやこんな車社会になっていくと良いなという思いがありましたら是非お話しいただきたいと思います。 では、Fさんお願いします。
県立大学F君	先ほど、「車を選ぶ際にどこから情報を得るか」という話をしていたと思いますが、個人的に一つ思っていることがあります、私も車が好きなのでカーセンサーなどをよく見たりしていますが、きっと多くの方が車を選ぶ際に走行距離を見られると思います。例えば、30,000 kmの車と60,000 kmの車の場合、大体の人が 30,000 kmの車を選ぶと思いますが、個人的にその情報だけを見て車を選ぶのはちょっと危険だなと思っていて、その車が今までどういう整備を受けてきたのかという情報もあわせて知ることができたら安心ではないかなと思います。 車の一番基本的なところで一番重要なところだと思っているのが、オイル交換だと思いますが、30,000 kmの車が 15,000 kmに 1 回オイル交換している場合と 60,000 kmの車が 5,000 kmごとにオイル交換している場合とでは後者の車のほうがエンジンの程度は相当違って良いと思います。そうしたところまでユーザー側に情報をしっかり公開する、事故歴がある車でもフレームが曲がるほどの事故をした車両なのか、ボンネットが少し曲がったくらいで単純にボンネットを交換するだけで済んだ車両などのなど、一部の情報だけ見せてユーザーが分からぬところでその判断材料を隠すということはせずに、こうした情報もあわせて見ることができる環境が整えばユーザーがもっと車が選びやすい社会になるのではないかと思いました。

司会	では、ディーラーの皆さんから学生の皆さんに聞いてみたいことがあればお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。
遠藤専務理事	<p>若者の車離れと言われておりますが、今私は 70 近い年齢ですけれども、私の若い頃は皆さんと同じくらいの年齢で車を持っている人はほとんどいませんでした。なぜかというとやはり金額が高い、なので皆さんの年齢で車を持っていなくても決して不思議なことではありません。ここで一つ質問したいのですが、「恋人ができたら一緒にドライブしたいな」と思う方はいらっしゃいますか。『複数名挙手』</p> <p>ありがとうございます。それぞれ車を所有していれば利用したいという気持ちはあるということで、ただ、所有するまでになかなか至らないというのが今の現状です。</p> <p>皆さんにご回答いただいたアンケートを見ますと、「車を持つ場合、どのような所有形態を考えているか」という質問に対して全員の方が「購入して所有」を選択しています。ここでもう一つ質問させていただきたいのですが、皆さんがこれから社会人になって収入を得るようになった時に「これくらいの金額であれば購入したい」または「残クレを利用してこれくらいの金額であれば払える」という金額をお聞きしたいのですが、まず 100 万円～200 万円くらいかなと考えている方、手を挙げてください。『複数名挙手』</p> <p>200 万円～300 万円の方、手を挙げてください。『若干名挙手』</p> <p>300 万円以上の方、手を挙げてください。『若干名挙手』</p> <p>ありがとうございます。100 万円～200 万円で挙手された方が多かったと思いますが、これからぜひ目標をもってお金を貯めていただいて、良い車がたくさんありますので、車を買われる際はここにいるディーラーにご相談していただければと思います。</p>
司会	それでは宇都宮理事長お願いします。
宇都宮理事長	<p>私から最後の質問をさせていただきます。</p> <p>今、交通手段としてデマンド交通であったり、キックボードであったり、電動自転車などがありますが、こうしたものを移動手段として使いたいという方はいらっしゃいますか。『若干名挙手』</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>我々自動車業界は車を売るだけではなく、「これからモビリティ社会にどう貢献していくか」ということが一番の課題となってきます。</p> <p>今後の自動車業界にもぜひ目を向けていただけたらと思います。</p>
司会	<p>もっと皆さんにお話しを伺いたいところではありますが、お時間となつてしましました。</p> <p>今日は皆さんの貴重な意見を聞くことができました。本当にありがとうございました。</p> <p>以上を持ちまして、ユーザーの意見を聴く懇談会を終了させていただきます。</p>

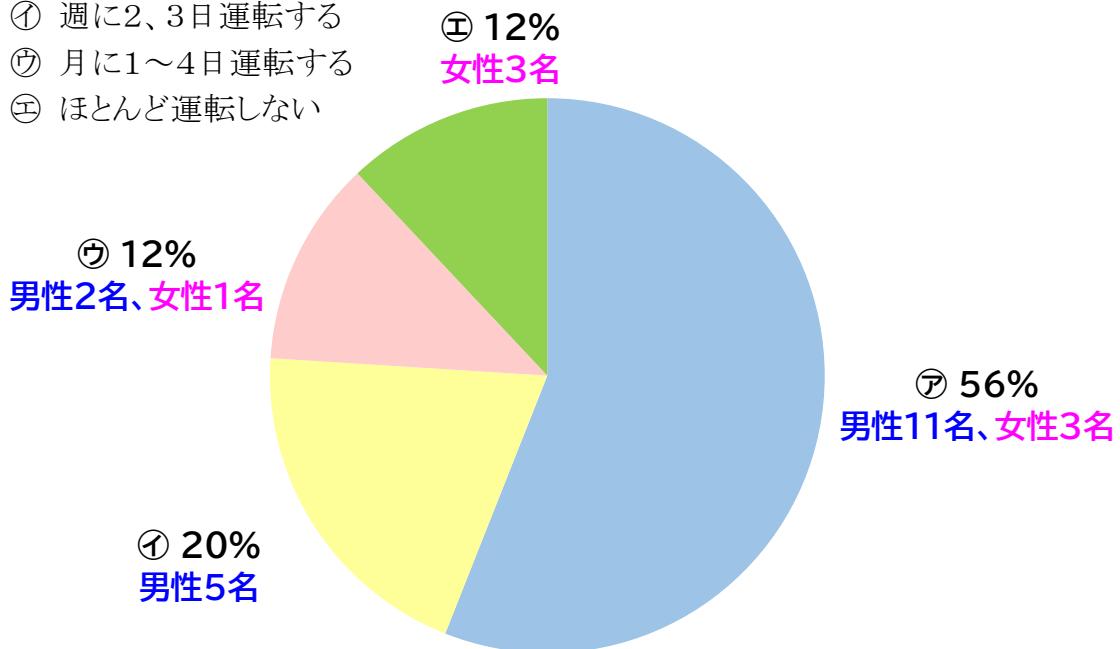
VI 参加学生アンケート

このアンケートは、懇談会前に学生の皆様（25名）に“事前アンケート”としてご回答いただいたものです。参考にしてください。

（※懇談会当日に学生1名が欠席となったため、アンケート回答人数と懇談会出席人数に相違があります。）

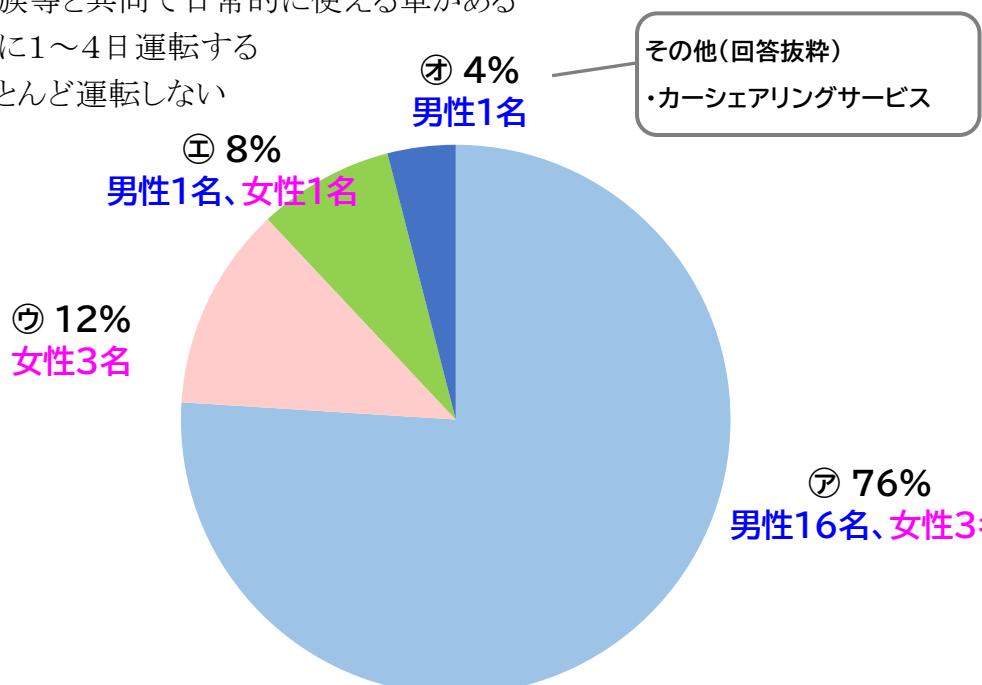
(1) あなたは車を運転しますか。

- Ⓐ ほぼ毎日運転する
- Ⓑ 週に2、3日運転する
- Ⓒ 月に1～4日運転する
- Ⓓ ほとんど運転しない



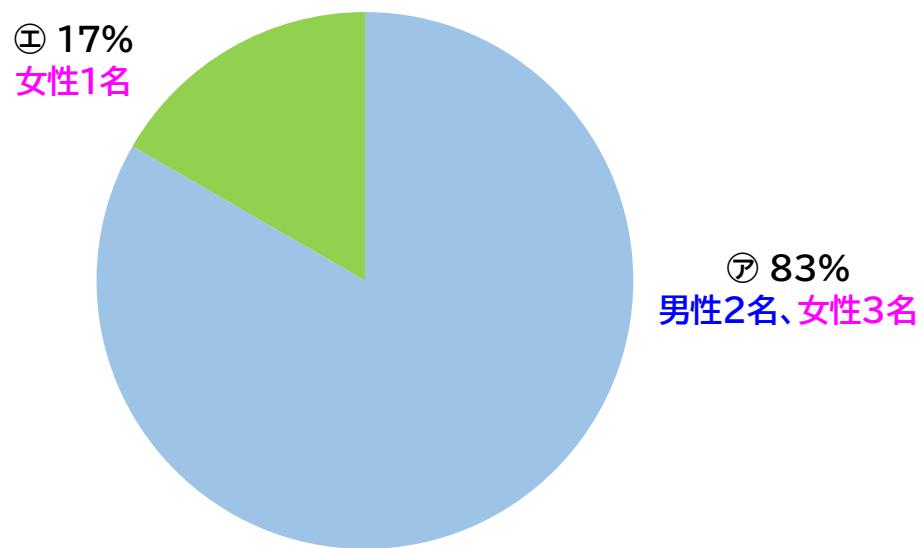
(2) あなたは自分で使用する車がありますか。

- Ⓐ 自分専用の車がある
- Ⓑ 家族等と共に日常的に使える車がある
- Ⓒ 月に1～4日運転する
- Ⓓ ほとんど運転しない



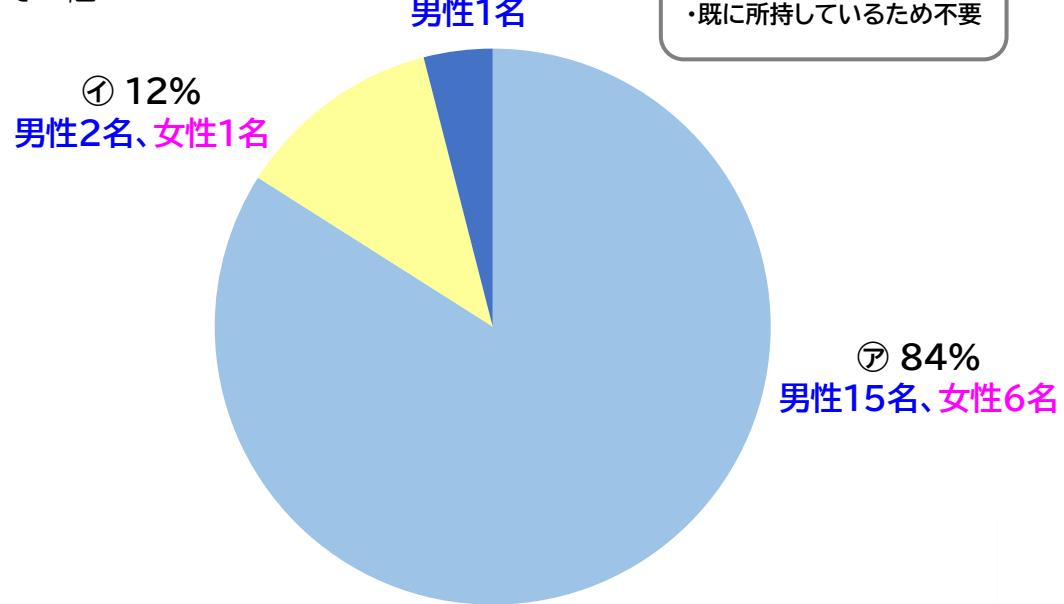
(3) Q 2で「ア」以外の回答をした方にお聞きします。
自分専用の車がない理由について教えてください。

- ⑦ 経済的理由
- ① ほしい車がない
- ② 車を持つ必要がない
- ③ 車の運転に自信がない
- ④ その他



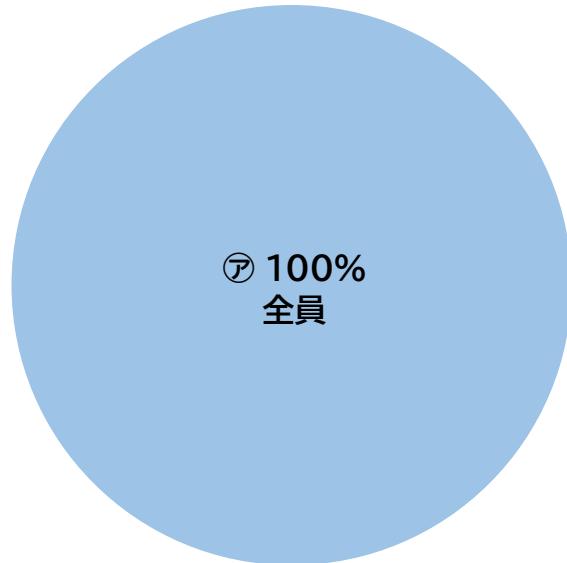
(4) 学校卒業後には自分で自由に使える車を持ちたいと思いますか。

- ⑦ 車を持ちたい
- ① 生活上必要であれば持ちたい
- ② 生活上困らなければ持ちたくない
- ③ 持ちたくない
- ④ その他



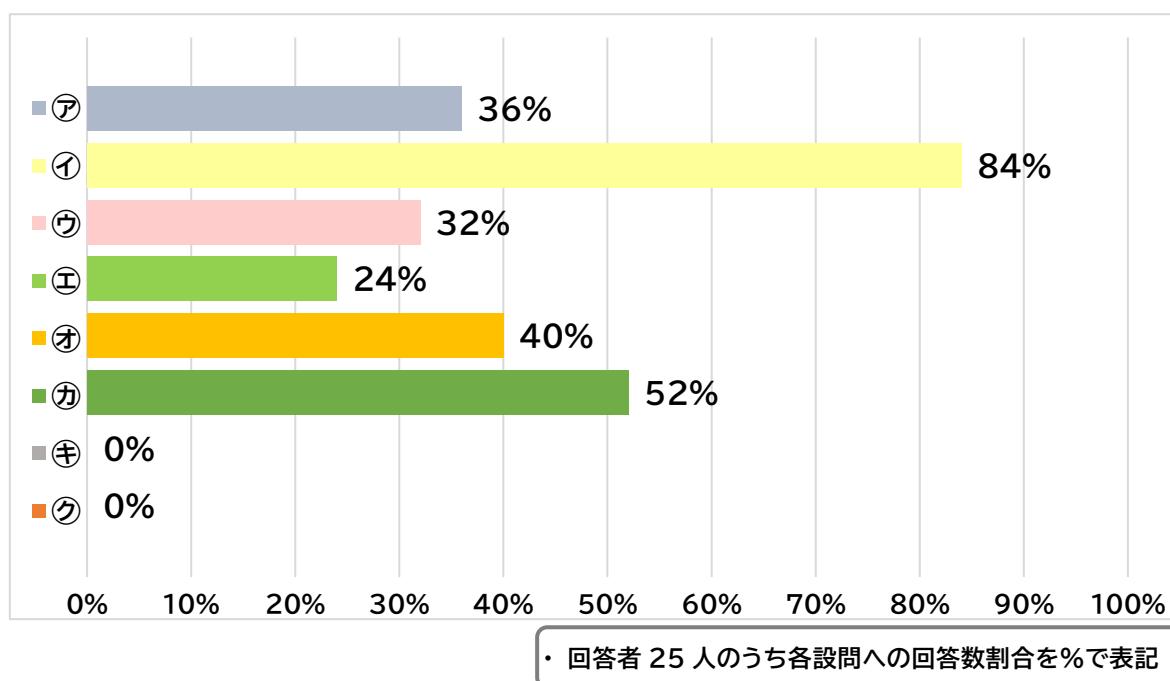
(5) 車を持つ場合は、どのような所有形態を考えていますか。

- Ⓐ 新車・中古車を購入(所有)する(※残価設定以外のローンを含む)
- Ⓑ 残価設定ローン
- Ⓒ リース、サブスクリプション
- Ⓓ カーシェアリング
- Ⓔ その他



(6) 自分の車を選ぶ際に、どのような点を重視しますか。 (3つまで選択可)

- | | | |
|---------------|--------------|----------|
| Ⓐ メーカー | Ⓑ 車のタイプ・デザイン | Ⓒ 装備 |
| Ⓓ 安全性能 | Ⓓ 走行性能 | Ⓓ 燃費・維持費 |
| Ⓔ 保証・アフターサービス | Ⓕ その他 | |



VII 付則資料

懇談会の出席者の詳細は、以下のとおりです。

(1) ユーザー 24名

信州大学工学部・大学院5名、長野県立大学4名、
清泉大学・短期大学部5名、長野自動車大学校5名、
松本情報工科専門学校5名

(2) オブザーバー 1名

信州大学工学部 高山 潤也 准教授

(3) 協会役員 8名

理事長	宇都宮 進一	長野トヨタ自動車(株)	代表取締役会長
副理事長	仁科 丈彦	(株)ホンダカーズしなの	代表取締役副代表
専務理事	遠藤 丈夫	(一社)長野県自動車販売店協会	専務理事
理事	東澤 勝俊	(株)ホンダカーズ長野中央	代表取締役社長
理事	富田 信	長野日産自動車(株)	代表取締役会長
理事	水野 右	長野日野自動車(株)	代表取締役社長
理事	中村 隆一	宇都宮商會(株)	代表取締役社長
監事	小澤 隆	小澤隆税理士事務所	税理士

(4) 会員 2名

川田 雅夫	スバル信州(株)	代表取締役社長
村松 淳	(株)甲信マツダ	人事労政部部長

(5) 司会進行 1名

SBC信越放送(株) 中澤 佳子 アナウンサー

(6) 記者 1名

(株)日刊自動車新聞社 秋山 淳 記者

(7) 協会事務局 6名

合計43名